

島前高校だより

10月6日から11日の約1週間、本校生徒4名がロシア連邦のウラジオストクを訪問しました。

今回の高校だよりでは、訪問者を代表して2年生の梅田桃実さんと1年生の青山みずほさん（いずれも海士中学校出身）に話を聞きました。

— ロシア行きを希望したのか。 —

● 私は、自分を変えなきゃいけないって思っていました。ロシアに行くことが決まったら、必然的に活動しなければいけなくなります。応募しただけでも、自分にとっては意味のあったことだと思っています。

● 私は、海外に興味がありました。日本に比べると日本のことしか分からないと思います。外国の人が日本のことをどう思っているのか聞き、多文化の感覚を肌で感じたい気持ちがありました。

— どのような準備をしたのか。 —

● 『外交官プログラム』というものが案内され、外交官と話ができるというのと、中国・韓国などの若い人と、互いの国について話しをするということとを聞かされました。

● 日本とロシアとの関係について、ロシアのことについて詳しい西ノ島町の佐倉さんの所に行ったり、常松校長先生の所に行ったりして話を聞きました。ロシアや中国・韓国のことを調べても分からないことだら

けで、分からないから話すにも自分の言葉にできず、不安が募るばかりでした。

● ロシア・中国・韓国の政治や教育について知識がなく、自分の考えを持ったり、それを言葉にしたりすることができずいました。しかも、ロシアに行くと言語で協議しなければいけないと思っていたので、焦ってばかりいました。

— ロシアに行ってみると、どうだったのか。 —

● めちゃくちゃ空気がきれいだなって思いました。東京からの訪問でギャップがあり、自然もたくさんあって嬉しかったです。オケアンの寮に着くと、日本語で「ようこそ！」と迎えてもらい、歓迎の大きさに感動しました。



● ロシアは「軍」というイメージや日本を敬遠しているのではないかと想像をしていました。でも「日本人は、ロシアから見ると、ハリウッドスターのような感じ。」という話があつて、実際に街では「キヤ、日本人！」というような声もあつて驚きました。

— ロシアでのプログラムで印象に残っていることは何か。 —

● プレゼンテーションです。プレゼンは、日本で準備をしていきました。

● プレゼンでは、①日本の文化について②隠岐島前地域について③平和を維持するために必要なことの3つを伝えました。発表は、用意していったけどミスがあ

りました。でも、聞いてくださる皆さんは目をキラキラさせて聞いてくれていたし、民謡を披露した際にはスタンディングオベーションまでいただきました。プレゼンをしてあんなに嬉しかったのは、人生で初めてのことでした。

● 外交官プログラムでは、日本の外交官と話す機会をいただきました。話しをする前夜のことですが、ロシアの生徒に「日本は好きか？」と問いかけると、「ノー。」と言われ…。外交官に、「ロシアの方々は日本人が嫌いらしいがどう思うか。」ということを探りました。そうしたら、30人ぐらいいたロシアの生徒達が「それは違うー」と言ってくれて、ハグされて、一生懸命話を話してくれて…。感動して涙が出てきました。（前日の会話は、どうやらお互いの言葉がかみ合っていないかつたようです。）

● 日本とロシアの間には、昔はいろいろなことがあったのかもしれない。でも、ロシアの人は、本当に日本に好意を抱いてくれてます。メディアなどで聞かされる話は、あまり関係ない気がしました。

● 過去の出来事に惑わされて、その国のイメージを決めてはいけないと思いました。このような経験をして、過去は過去、今は今なんだと思いました。ロシアの人達の様子を、いろいろな人に伝えていきたいと思いました。

— 今回の訪問で学んだことは何か。 —

● 何だろう。一杯ありますね。私達は、その国のことをメディアや人から聞いて、決めつけてしまっていま

す。そういうことから決めつけてしまわず、本当に行ってみないと分からないということ。イメージで決めるのは良くない。自分で実際に見て、感じて自分のイメージをつくっていきたくと思うようになりました。また、海外に行ってみたくて、観光でもいいです。自分で見て、関わって、楽しさを味わっていきたくて。

● その国と仲良くしようと思ったら、トップ（国）だと時間がかかるような気がします。もっと、民間のレベルでつながりを深めていけば、誤解も問題も少なく済むように思います。今回は、ロシアでもウラジオストクに行きましたが、ロシアのそれ以外の場所にも行ってみたいと思いました。ロシアのことをもっと知りた

いです。ロシアの人ともっとふれ合いたい。そうすることでも、また自分も変わっていくのかもしれない。そんな。



島前高校生は、島前地域のみならず、島前を飛び出して日本各地や海外でも挑戦しています。いずれも多くの「人」に関わっていただき、生徒に様々な変化が起こっています。これからは引き続き、島前高生の挑戦に叱咤激励をよろしくお願いします。